

## 人権・同和教育についての感想

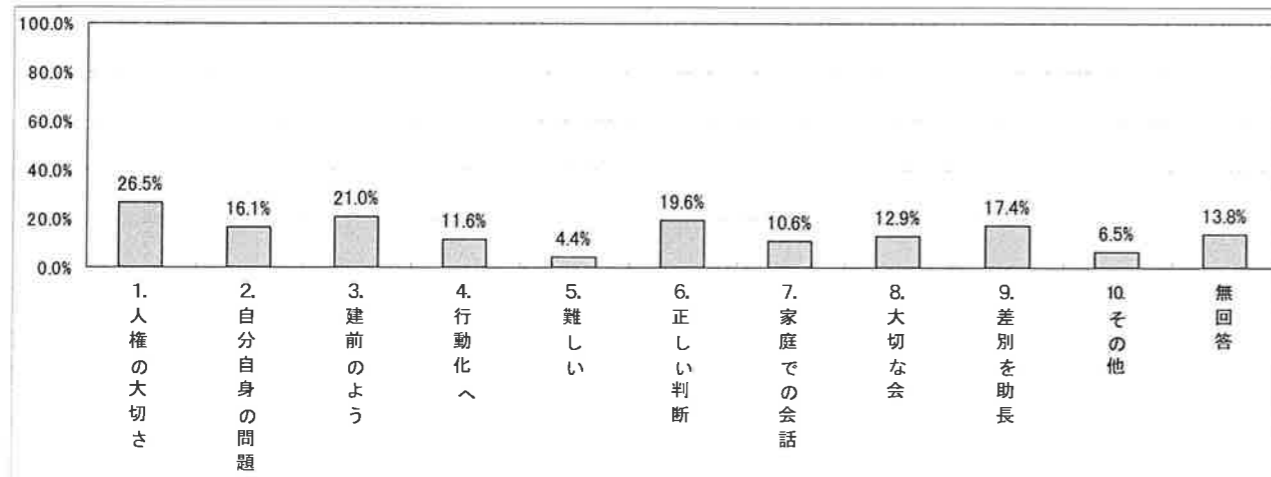
質問7 人権・同和教育は、学校教育や社会教育で取り組まれています。あなたは、これまでに参加された講演会や研修会、同和教育部落懇談会（小地域懇談会）などで、どのような感想をもたれましたか。あなたの考えに近いものを選んでください。（2つ以内）また、その他にご意見がありましたら、お書きください。

- 1 自分の人権と同じように、他人の人権についても大切なことがわかった。
- 2 人権問題は、自分の生活と深く関係があるとわかり、自分自身の問題として、これからは人権・同和教育の取り組みに参加したいと思う。
- 3 建て前のような内容が多いし、自分の生活とかけ離れていた、毎日の人間関係に活かすのは難しいと思う。
- 4 部落問題を通して、生活の中での不合理な因習や迷信、さまざまな差別にも気づけるようになり、自分も何かしなければならぬと思う。
- 5 話が難しく、よくわからなかった。
- 6 幼い頃からの取り組みを通して、人権意識を高めたり、さまざまな情報に対して、自分で考えたり、正しい判断ができるようになると思う。
- 7 出席することで、いろいろ気づくことが多くあり、子どもたちと家庭での会話が進んでもてるようになった。
- 8 個人同士や、部落での寄りあいなどで、人間の大切さや人権尊重について、あらためて話し合うのは難しいので、同和教育部落懇談会（小地域懇談会）は大切な会だと思った。
- 9 このような会をいつまでも続けることが、差別を助長させると思った。

この質問は、講演会や研修会等に参加しての感想を複数回答（2つ以内）で問うている。

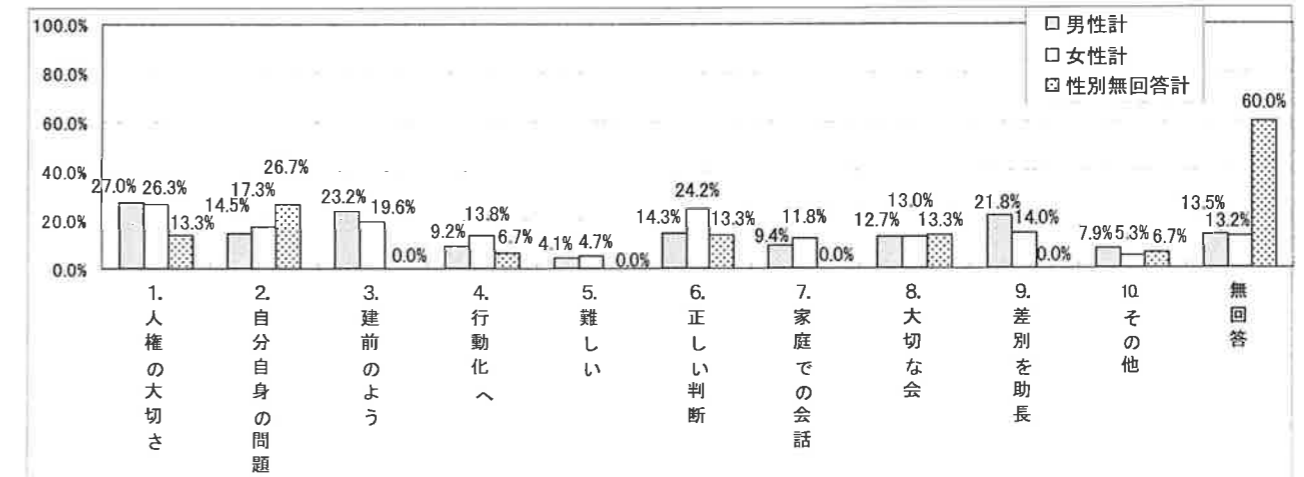
質問7		1. 人権の大切さ		2. 自分自身の問題		3. 建前のように		4. 行動化へ		5. 難しい		回答者数
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
20才代	男	30	31.9%	9	9.6%	20	21.3%	10	10.6%	3	3.2%	94
	女	40	37.0%	17	15.7%	22	20.4%	10	9.3%	1	0.9%	
	計	70	34.7%	26	12.9%	42	20.8%	20	9.9%	4	2.0%	
30才代	男	27	24.1%	10	8.9%	25	22.3%	9	8.0%	7	6.3%	112
	女	29	21.8%	30	22.6%	18	13.5%	17	12.8%	3	2.3%	
	計	56	22.9%	40	16.3%	43	17.6%	26	10.6%	10	4.1%	
40才代	男	33	28.4%	20	17.2%	33	28.4%	13	11.2%	5	4.3%	116
	女	37	24.8%	35	23.5%	20	13.4%	28	18.8%	5	3.4%	
	無回答	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	計	70	26.3%	56	21.1%	53	19.9%	41	15.4%	10	3.8%	
50才代	男	38	30.4%	26	20.8%	32	25.6%	12	9.6%	6	4.8%	125
	女	34	22.7%	31	20.7%	38	25.3%	25	16.7%	11	7.3%	
	計	72	26.2%	57	20.7%	70	25.5%	37	13.5%	17	6.2%	
60才代	男	24	19.0%	21	16.7%	26	20.6%	11	8.7%	4	3.2%	126
	女	44	29.3%	23	15.3%	37	24.7%	19	12.7%	11	7.3%	
	計	68	24.6%	44	15.9%	63	22.8%	30	10.9%	15	5.4%	
70才以上	男	33	29.7%	13	11.7%	23	20.7%	8	7.2%	3	2.7%	111
	女	30	24.4%	5	4.1%	24	19.5%	13	10.6%	7	5.7%	
	計	63	26.9%	18	7.7%	47	20.1%	21	9.0%	10	4.3%	
年代性別無回答		2	14.3%	3	21.4%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	14
合計	男性計	185	27.0%	99	14.5%	159	23.2%	63	9.2%	28	4.1%	684
	女性計	214	26.3%	141	17.3%	159	19.6%	112	13.8%	38	4.7%	
	性別無回答計	2	13.3%	4	26.7%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	
	合計	401	26.5%	244	16.1%	318	21.0%	176	11.6%	66	4.4%	

全体

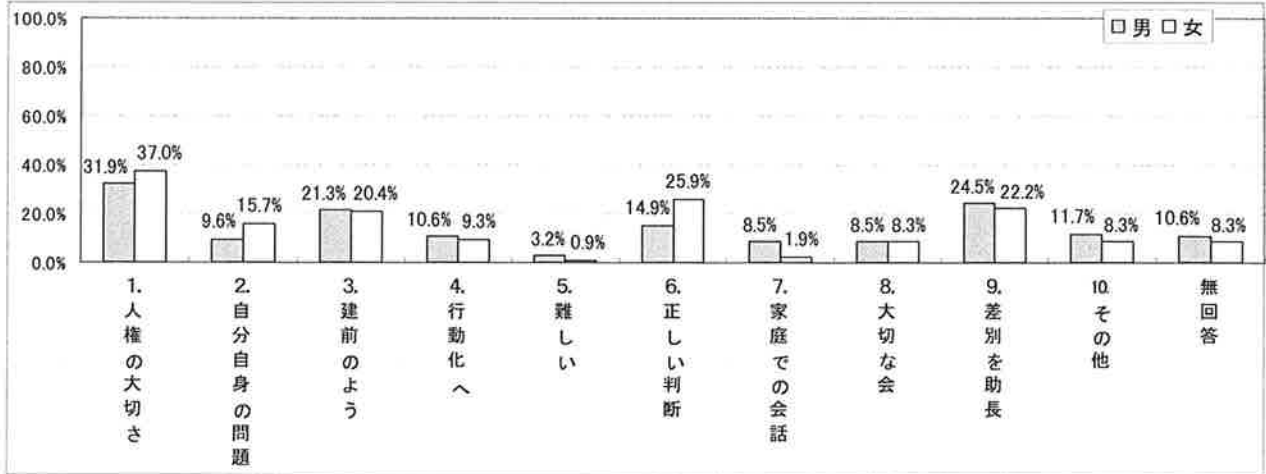


質問7		6. 正しい判断		7. 家庭での会話		8. 大切な会		9. 差別を助長		10. その他		無回答	回答者数	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合			
20才代	男	14	14.9%	8	8.5%	8	8.5%	23	24.5%	11	11.7%	10	10.6%	94
	女	28	25.9%	2	1.9%	9	8.3%	24	22.2%	9	8.3%	9	8.3%	
	計	42	20.8%	10	5.0%	17	8.4%	47	23.3%	20	9.9%	19	9.4%	
30才代	男	20	17.9%	10	8.9%	10	8.9%	26	23.2%	8	7.1%	16	14.3%	112
	女	41	30.8%	22	16.5%	8	6.0%	18	13.5%	3	2.3%	16	12.0%	
	計	61	24.9%	32	13.1%	18	7.3%	44	18.0%	11	4.5%	32	13.1%	
40才代	男	18	15.5%	11	9.5%	5	4.3%	26	22.4%	9	7.8%	14	12.1%	116
	女	48	32.2%	39	26.2%	14	9.4%	11	7.4%	8	5.4%	10	6.7%	
	無回答	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	
	計	67	25.2%	50	18.8%	19	7.1%	37	13.9%	18	6.8%	24	9.0%	
50才代	男	18	14.4%	12	9.6%	23	18.4%	23	18.4%	6	4.8%	10	8.0%	125
	女	39	26.0%	15	10.0%	26	17.3%	15	10.0%	10	6.7%	17	11.3%	
	計	57	20.7%	27	9.8%	49	17.8%	38	13.8%	16	5.8%	27	9.8%	
60才代	男	15	11.9%	13	10.3%	19	15.1%	26	20.6%	12	9.5%	26	20.6%	126
	女	26	17.3%	13	8.7%	31	20.7%	19	12.7%	9	6.0%	21	14.0%	
	計	41	14.9%	26	9.4%	50	18.1%	45	16.3%	21	7.6%	47	17.0%	
70才以上	男	13	11.7%	10	9.0%	22	19.8%	25	22.5%	8	7.2%	16	14.4%	111
	女	15	12.2%	5	4.1%	18	14.6%	27	22.0%	4	3.3%	34	27.6%	
	計	28	12.0%	15	6.4%	40	17.1%	52	22.2%	12	5.1%	50	21.4%	
年代性別無回答		1	7.1%	0	0.0%	2	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	9	64.3%	14
合計	男性計	98	14.3%	64	9.4%	87	12.7%	149	21.8%	54	7.9%	92	13.5%	684
	女性計	197	24.2%	96	11.8%	106	13.0%	114	14.0%	43	5.3%	107	13.2%	
	性別無回答計	2	13.3%	0	0.0%	2	13.3%	0	0.0%	1	6.7%	9	60.0%	
	合計	297	19.6%	160	10.6%	195	12.9%	263	17.4%	98	6.5%	208	13.8%	

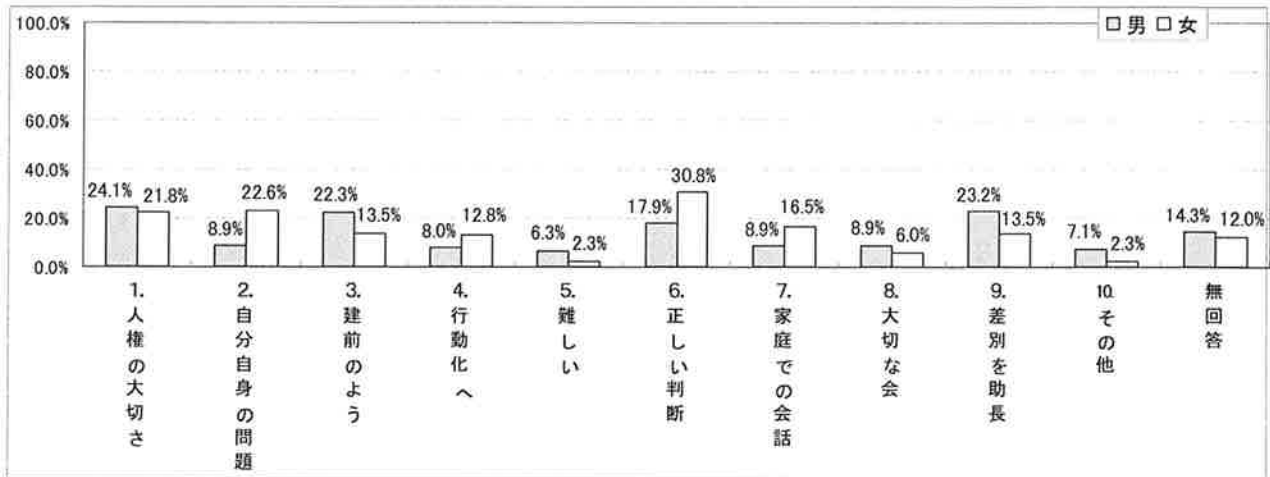
男女別全体



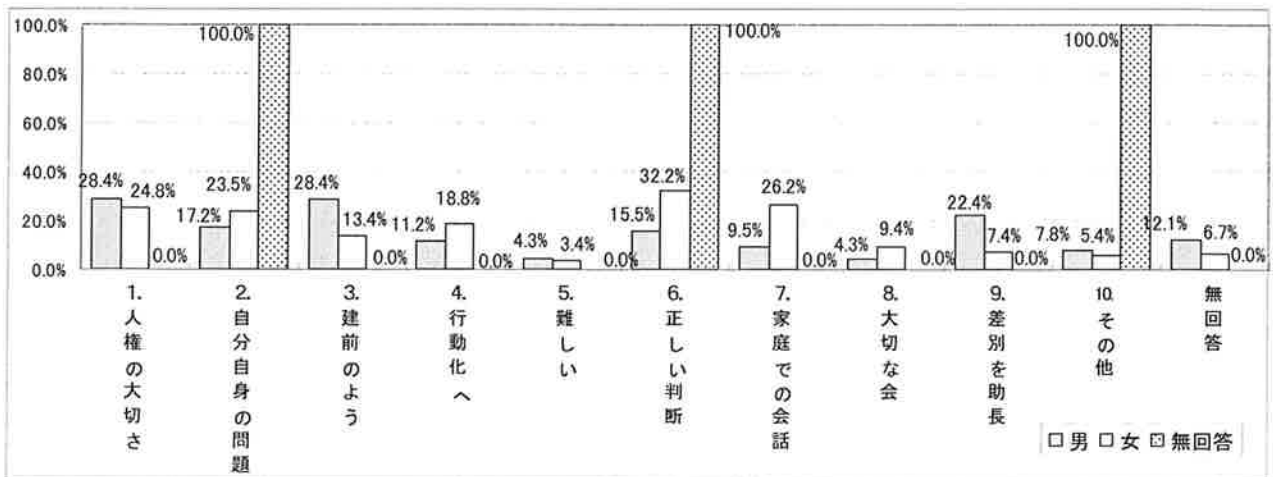
20才代



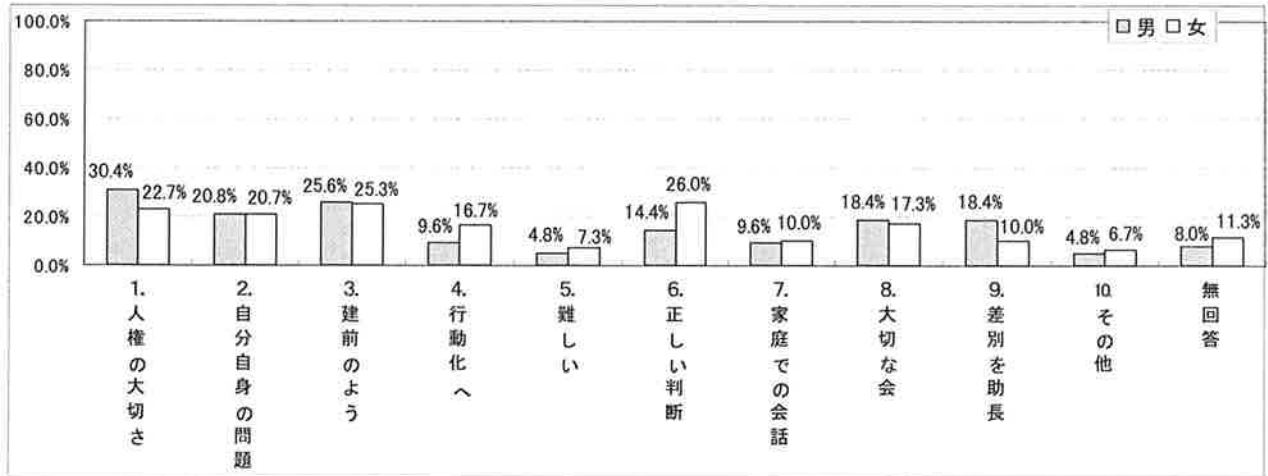
30才代



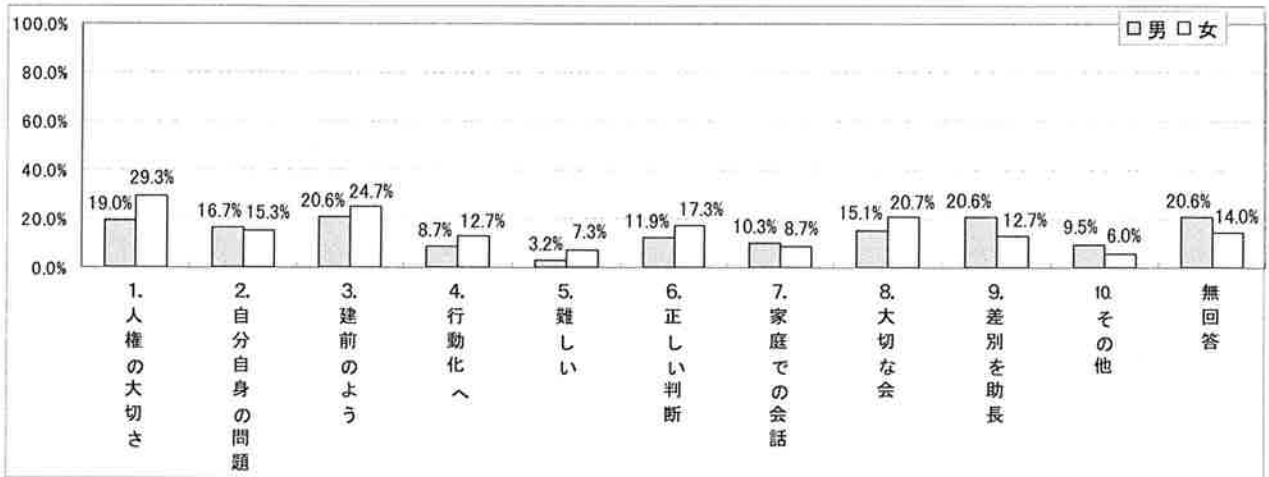
40才代



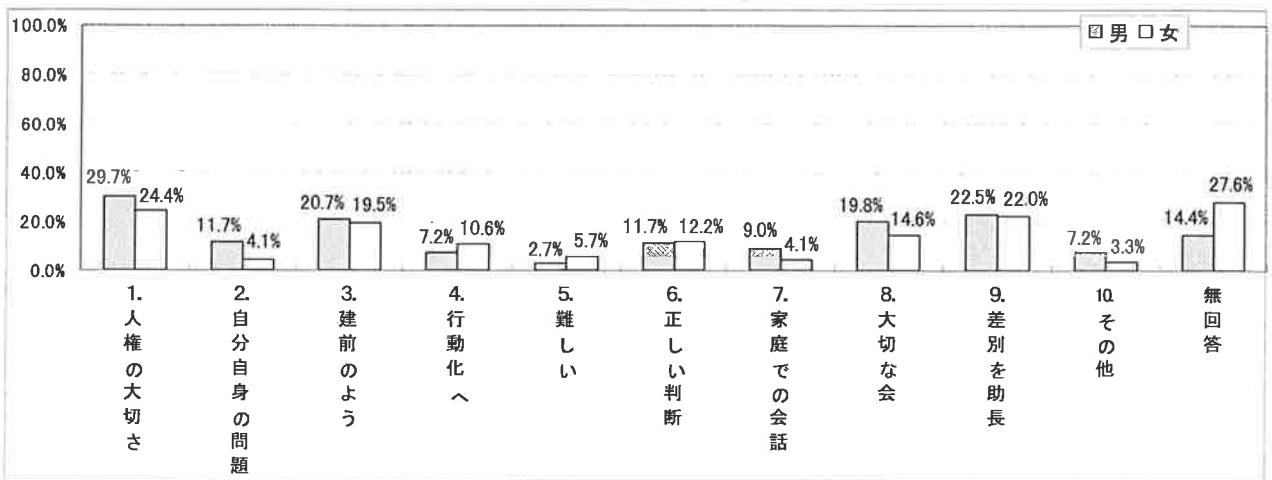
### 50才代



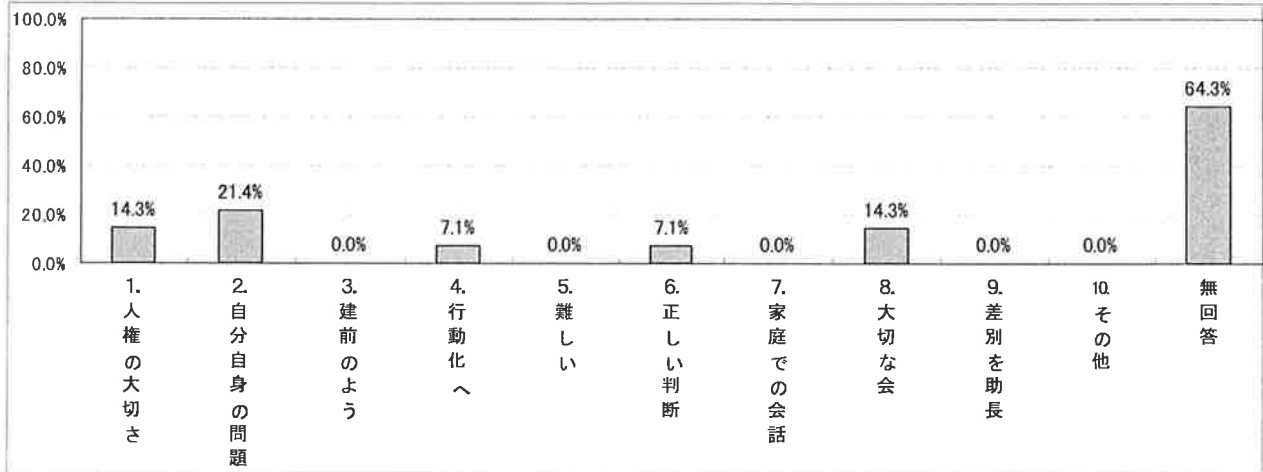
### 60才代



### 70才以上



年代性別無回答



<分析>

- 全体では、「人権の大切さがわかった」が26.5%で最も高い。次いで、「建前のように」21.0%、「人権意識を高めたり、正しい判断ができる」19.6%、「差別を助長させる」17.4%、「自分自身の問題として取り組みたい」16.1%と続く。

全回答項目数（複数回答）の中で、肯定的、積極的な回答と否定的、消極的な回答が占める割合をみると、「人権の大切さがわかった」、「自分自身の問題として取り組みたい」、「自分も何かしなければならぬ」、「人権意識を高めたり、正しい判断ができる」、「家庭での会話が進んで持てる」、「同和教育部落懇談会は大切な会」という肯定的、積極的な回答は約6割である。しかし、「自分自身の問題として取り組みたい」、「自分も何かしなければならぬ」の合計が17%程度であることから、知識としての理解にとどまり、認識が深まらず、行動化するところまでは高まっていない現状が見られる。また、「建前のように」、「差別を助長させる」など否定的、消極的と考えられる回答は約27%である。

- 年代別では、次のような傾向がみられる。
  - ・ 20才代は、「人権の大切さがわかった」が各年代で最も高いが、「差別を助長させる」も各年代で最も高い。また、「人権意識を高めたり、正しい判断ができる」とともに「建前のように」も高い割合を示している。
  - ・ 30才代は他の年代と違い、「人権意識を高めたり、正しい判断ができる」が最も高く、「人権の大切さがわかった」が続く。また、否定的、消極的な回答の割合も高い。
  - ・ 40才代は、「人権の大切さがわかった」が最も高い。続く「人権意識を高めたり、正しい判断ができる」、「自分自身の問題として取り組みたい」、「家庭での会話が進んで持てる」、「自分も何かしなければならぬ」は、それぞれ各年代で最も高い。全回答項目数（複数回答）の中での肯定的、積極的な回答の割合は約7割である。
  - ・ 50才代は、「建前のように」が年代中最も高いが、「人権の大切さがわかった」が最も高く、「人権意識を高めたり、正しい判断ができる」、「自分自身の問題として取り組みたい」、「同和教育部落懇談会は大切な会」とする肯定的、積極的な回答の割合が高い。
  - ・ 60才代は、「人権の大切さがわかった」が最も高く、「同和教育部落懇談会は大切な会」も高くなる。しかし、「建前のように」、「差別を助長させる」の割合も高く、全回答項目数（複数回答）の中での肯定的、積極的な回答の割合は6割を大きく下回る。

- ・ 70 才以上は、肯定的、積極的な回答としては「人権の大切さがわかった」が最も高く、次いで「同和教育部落懇談会は大切な会」である。しかし、「差別を助長させる」、「建前のよう」の割合が高く、全回答項目数（複数回答）の中での肯定的、積極的な回答の割合は 5 割強である。
- 男女別でみると、どちらも「人権の大切さがわかった」がほぼ同じ割合で最も高い。「人権意識を高めたり、正しい判断ができる」は女性の方が 9.9 ポイント高く、「差別を助長させる」は男性の方が 7.8 ポイント高い。積極的、肯定的な回答については女性の方が高い割合を示している。男性より女性の方が研修会での「人権」や「人権問題」に対する気づきや学びを肯定的、積極的に捉えようとしていることが伺える。
- 年代男女別でみると、30 才代、40 才代、60 才代は男女差が顕著である。
  - ・ 30 才代では、男性は「人権の大切さがわかった」が 24.1%で最も高いが、「差別を助長させる」23.2%、「建前のよう」22.3%と、否定的、消極的な回答の割合が女性より約 9～10 ポイント高い。一方、女性は「人権意識を高めたり、正しい判断ができる」が 30.8%で男性より約 13 ポイント高く、「自分自身の問題として取り組みたい」は約 14 ポイント、「家庭での会話が進んで持てる」も約 8 ポイントと、男性より、肯定的、積極的な回答の割合が高い。
  - ・ 40 才代では、女性は「人権意識を高めたり、正しい判断ができる」が 32.2%で最も高い。さらに、「家庭での会話が進んで持てる」、「自分自身の問題として取り組みたい」、「自分も何かしなければならぬ」についても、年代男女中最も高く、男性の割合を大きく上回る。一方、男性は「人権の大切さがわかった」と「建前のよう」がいずれも 28.4%と最も高い。また「差別を助長させる」も高い割合である。2 つの否定的、消極的な回答は、いずれも女性より 15.0 ポイント高い。また、「同和教育部落懇談会は大切な会」は、年代男女中最も低い。
  - ・ 60 才代では、女性は「人権の大切さがわかった」が 29.3%だが、男性は 10.3 ポイント低く、これは年代男女中最も低い。また、「差別を助長させる」については、男性が 20.8%で、女性を 7.9 ポイント上回る。

【質問7（研修会等の感想）と、質問6-1（研修会等への参加回数）との関連】

[質問6-1の内容]

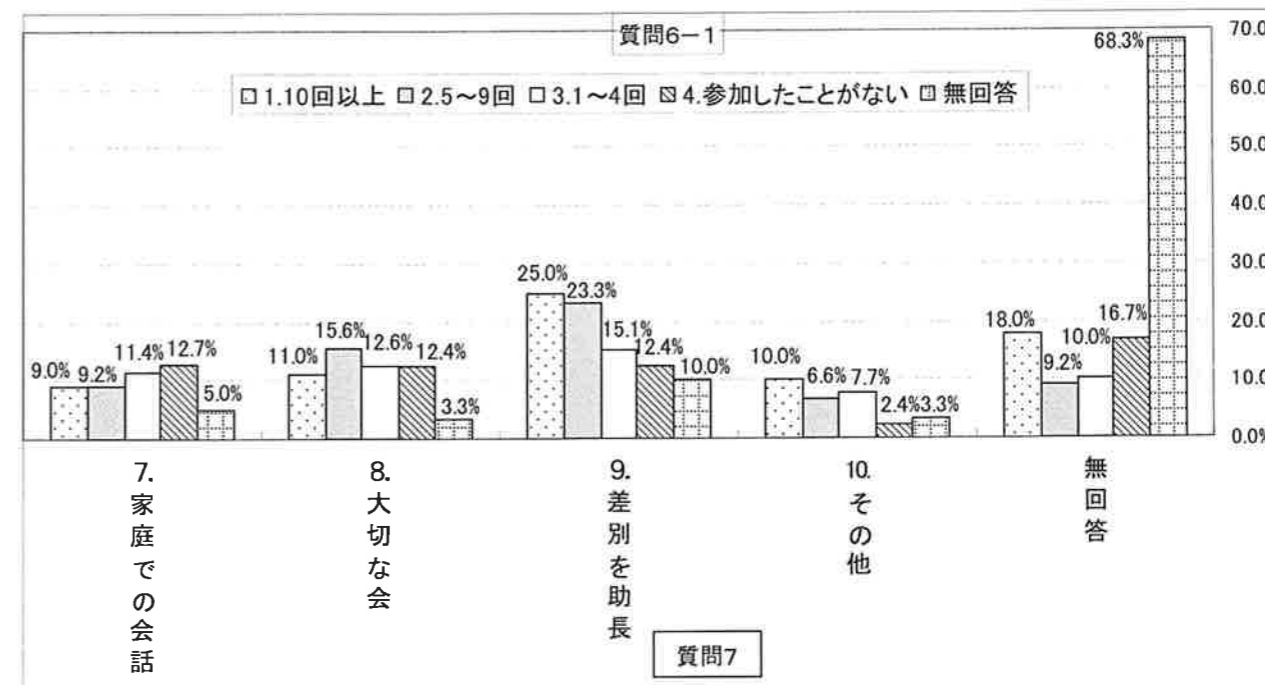
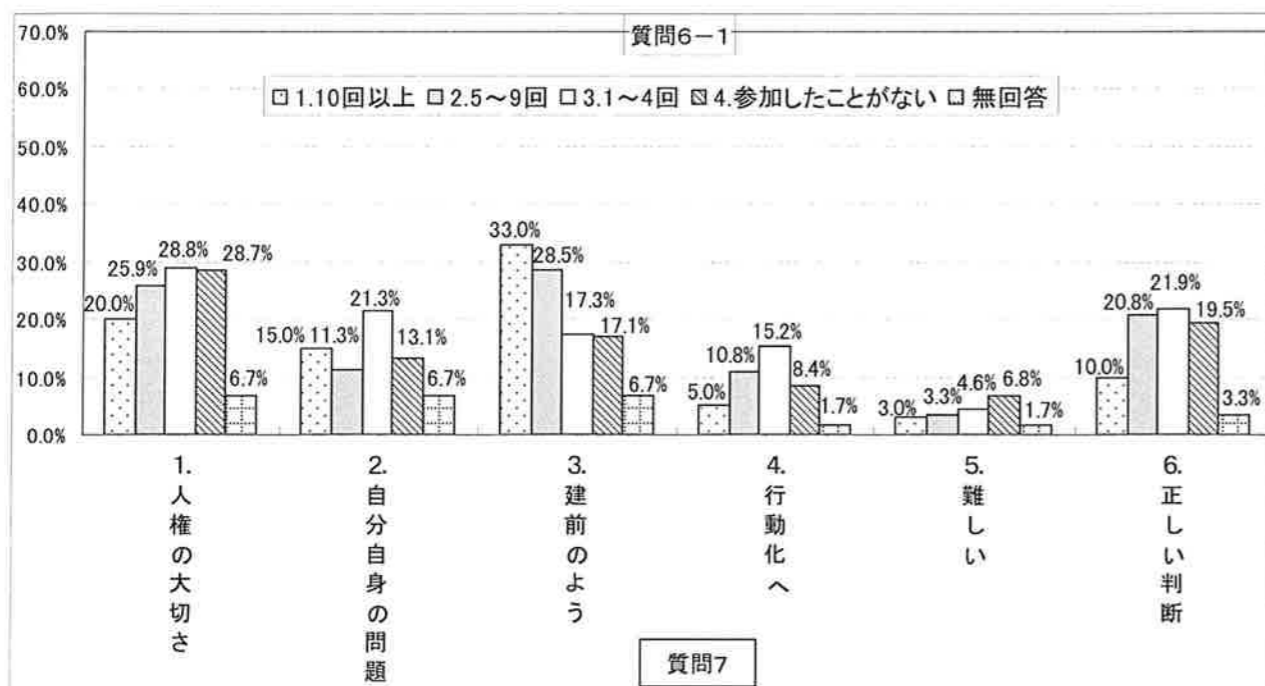
あなたは過去5年間に、人権・同和教育の講演会や研修会に参加されたことがありますか。

- 1. 10回以上参加した。
- 2. 5～9回参加した。
- 3. 1～4回参加した。
- 4. 参加したことがない。

このクロス集計では、参加した研修会等の感想について、参加回数の違いによる感想の傾向をみた。

質問6-1	1 人権の大切さ		2 自分自身の問題		3 建前のよう		4 行動化へ		5 難しい		6 正しい判断	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 10回以上	20	20.0%	15	15.0%	33	33.0%	5	5.0%	3	3.0%	10	10.0%
2. 5～9回	110	25.9%	48	11.3%	121	28.5%	46	10.8%	14	3.3%	88	20.8%
3. 1～4回	195	28.8%	144	21.3%	117	17.3%	103	15.2%	31	4.6%	148	21.9%
4. 参加したことがない	72	28.7%	33	13.1%	43	17.1%	21	8.4%	17	6.8%	49	19.5%
無回答	4	6.7%	4	6.7%	4	6.7%	1	1.7%	1	1.7%	2	3.3%

7 家庭での会話		8 大切な会		9 差別を助長		10 その他		無回答		回答者数
回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
9	9.0%	11	11.0%	25	25.0%	10	10.0%	18	18.0%	100
39	9.2%	66	15.6%	99	23.3%	28	6.6%	39	9.2%	424
77	11.4%	85	12.6%	102	15.1%	52	7.7%	68	10.0%	677
32	12.7%	31	12.4%	31	12.4%	6	2.4%	42	16.7%	251
3	5.0%	2	3.3%	6	10.0%	2	3.3%	41	68.3%	60
										1,512



<分析>

○ 研修回数が増えるにしたがって、「人権の大切さがわかった」、「人権意識を高めたり、正しい判断ができる」、「自分自身の問題として取り組みたい」、「自分も何かしなければならない」などの肯定的、積極的な回答の割合は減少している。一方、「差別を助長させる」、「建前のよう」とする否定的、消極的な回答は、「参加したことがない」とする回答の割合に比べ約2倍増加している。

【考察】

◎ 20才代、30才代は、否定的、消極的な回答が70才以上に次いで高く、若い世代が持ってしまった「寝た子を起すな」的な意識は、学校教育における同和教育の課題であると受け止めなければならない。

また、40才代以上は、肯定的・積極的な意見が多いが、学習することで、逆に「寝た子を起すな」意識を高めてしまっている場合もある。研修会等への参加が「半強制的」と受け止められ、さらに研修内容が、普遍的な人権の視点を欠き、「押し付け」や一方的な理解や価値的態度を迫るものになっていたのでないか、真摯に検証すべき課題である。